

また戻ってきて

光星センバツ2回戦敗退

生徒、父母 健闘ねぎらう



アルプススタンドでユニークな踊りを披露し、応援席を盛り上げる山田生徒会長(左)ら

徒会長(3年)が中心となってユニークな踊りを披露し盛り上げたが、願いはかなわなかった。

兵庫県出身の4番益田敦成選手(母・愛子さん(42)は25日に「一戦必勝、一人一役、全員主役で楽しんできなさい」とメールを送ったところ、「おつ」と返ってきたという。益田選手はノーヒットに終わったが、愛子さんは「課題が多く見つけたと思う。4番の役割をしっかりと考え、また夏に戻ってきて」と願いを込めた。

今春卒業した同校硬式野球部OBで、4月から地元大阪府の企業に就職する野上英佑さん(18)は「(2年前の同じ2回戦で敗れた)平安にリベンジしてほしい」と再び甲子園で戦ってほしい」と力を込めた。

チアリーディング部の岩館琴菜さん(2年)は「最後まで諦めず戦ってくれて、ありがとうと言いたい。夏の大会ではもっと強くなった姿を見せてほしい」とエールを送った。(兼平昌寛)

「ありがとう」「また甲子園に戻ってきて」。第88回選抜高校野球大会の2回戦・八学光星・龍谷大平安(京都)が行われた26日、甲子園球場の三塁側アルプススタンドでは、同校の生徒や硬式野球部員の父母、OBら応援団が勝利を信じて応援した。無念の完封負

けに終わったが、試合終了後は最善を尽くして戦ったナインに、温かいねぎらいの言葉が送られた。

【本記1面】

生徒らは吹奏楽部の演奏に合わせて拍手したり、大声を張り上げたりして応援。初戦に続き、この日も硬式野球部員の山田鈴星生